

# 経尿道的尿管結石破砕術説明書

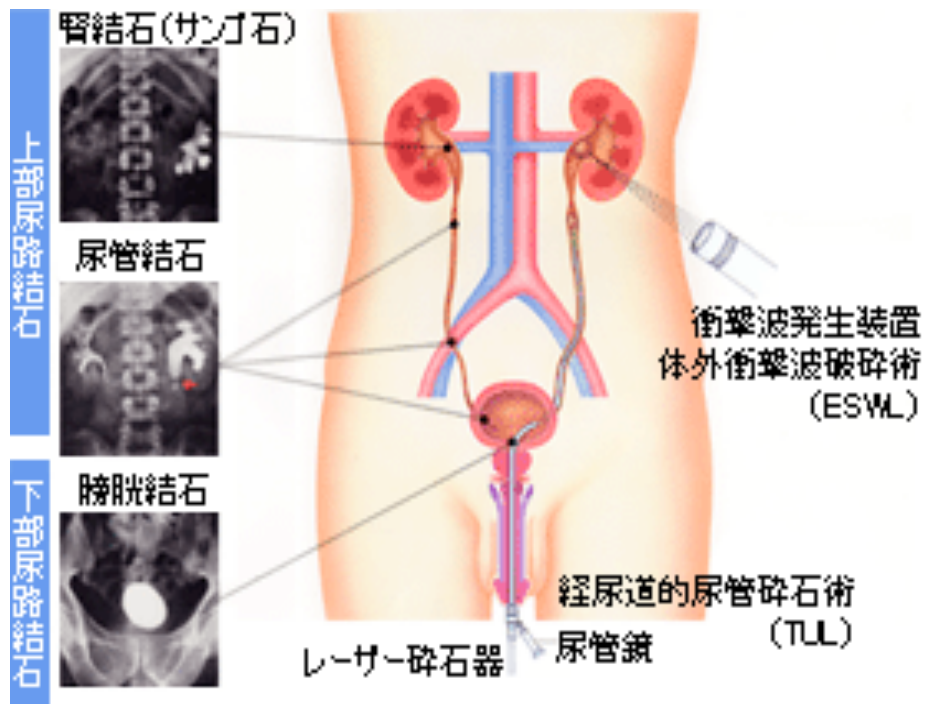
## (Trans-ureteral ureterolithotripsy TUL)

腰椎麻酔（背中に針を刺し、麻酔薬を入れ、下半身を一時的に麻痺させる方法）を施行後、尿道の入り口（外尿道口）から内視鏡を入れます。結石を直接観察しながら、レーザーや破石装置で結石を破砕します。約1時間半の手術です。

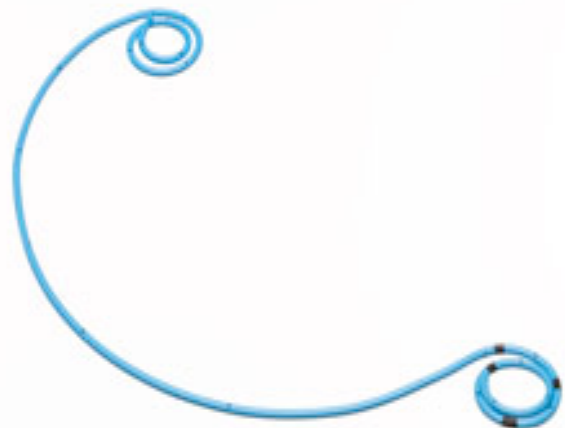
内視鏡が挿入困難な場合は下記のような合併症予防のため手術を中止し、可能であれば尿管ステントの留置を施行し、後日再手術や体外衝撃波治療などの治療法を検討します。尿管が浮腫や狭窄により、術後の痛みや感染の併発の可能性がある場合には尿管内にカテーテル(尿管ステント)を留置し、1～3か月後に外来で内視鏡を行い抜去することがあります。

### □ この手術の必要性について

1回の治療でより高い治療効果を得たい／体外衝撃波を数回施行も破砕効果は殆ど認められない・レントゲンで結石が写らない等の理由により、尿管内に直接内視鏡を挿入して尿管結石を破砕し、摘出します。



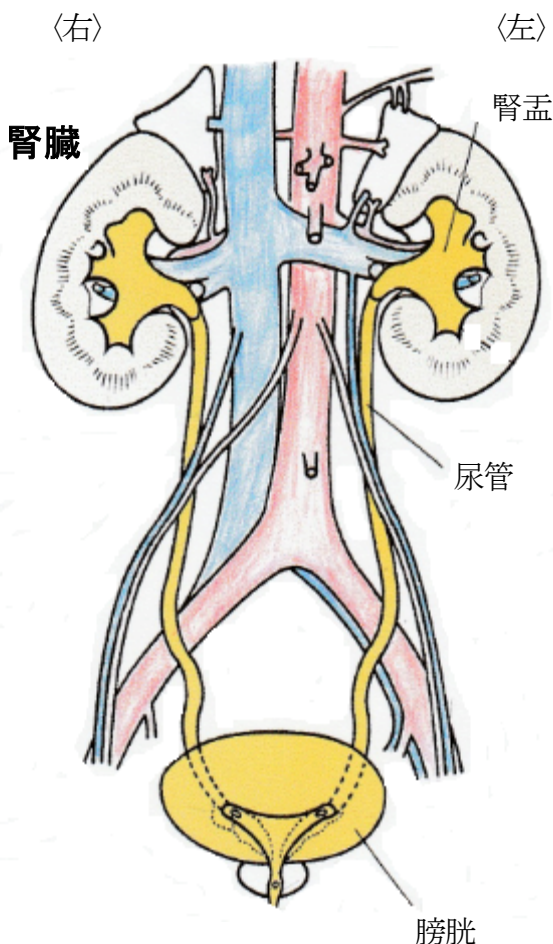
ゼネカ薬品株式会社 患者説明用フィルム 泌尿器系の疾患より抜粋



尿管ステント (Boston Scientific ホームページより)

□ 手術の危険性・合併症・経過予想（含後遺症）

- ・ 出血、血尿→尿管粘膜をわずかながら傷つけるため、血尿が数日続きます。通常は自然に消失します。
- ・ 発熱、感染症→点滴での抗生物質の治療をします。
- ・ 疼痛：術後、背中痛みが生じることがあります。その際には痛み止めを使用します。
- ・ 尿管狭窄→結石に伴う炎症によって尿管が狭くなる場合があります。後日、尿管拡張術が必要となることがあります。
- ・ 尿管穿孔→尿管壁は非常に薄いため、治療中に尿管に穴が開いてしまったり裂けてしまうことがあります。軽度であれば穴が閉じるまで尿管内にカテーテル（尿管ステント）を入れておきます。
- ・ 結石の残存→結石、破砕片が水圧、振動等で腎臓に上がってしまうことがあります。術後追加治療として体外衝撃波結石破砕術(ESWL), 再手術などを要することがあります。
- ・ 頭痛、吐き気→脊椎麻酔による副作用で治療後に頭痛が生じることがあります。帰宅後に生じた場合には痛み止め薬で対応しますが安静にしてください必要があります。
- ・ その他予期せぬ合併症：適宜対処させていただきます。



年 月 日

担 当 医

\_\_\_\_\_

患者様または代理人  
(続柄 )

\_\_\_\_\_

看 護 師

\_\_\_\_\_

船橋クリニック